

東日本ユニオン大宮 ラ・マヒストラル

JR東日本労働組合
大宮地方本部
発行責任者:渡辺 純
2021年11月8日 No.37

年末手当の闘い 山場！

私たち東日本ユニオンは、2021年度年末手当の取り組みにおいて「4本柱」を掲げ、全組合員一丸となって闘っています。

2.8ヶ月要求を掲げた2021年度年末手当の闘いは、1回目と2回目の団体交渉を終え、まさに正念場を迎えています。



特に2回目の本部一本社間の交渉において、経営側は「10月28日に発表した『第2四半期決算』も大幅な赤字を計上し、さらに通期の業績予想を下方修正するなど非常に厳しい経営状況にある。支給水準は極めて慎重かつ、総合的に判断していく必要がある」との認識に対して、本部交渉団は「第2四半期決算では厳しい結果になったものの、昨年比で増収増益となっている！コロナも収束に向かって明るい兆しが見られる！組合員の生活も原油価格の高騰や計画ローンなどを抱えて厳しい！2.8ヶ月要求の満額回答を強く求める！」と迫りました。

会社は赤字とはいえ、内部に儲けを貯め込んできた。支払い能力はある！コロナ禍では全社員が一丸となって奮闘してきた。成績率の適用もやめるべきだ！



エルダーは給与が低い。年末手当の一部も生活費に充てている。少しでも多くもらいたい！労働者の団結なしに要求実現はない！

現場第一線で働く組合員や職場の仲間たちからも多くの切実な想いと怒りが寄せられています。この声を武器に最後の最後まで、要求満額回答をめざしてがんばりましょう！